

中学生の保護者の皆様へ～伝統と誇りが生み出す校風と茨高愛～

76期（現高3生）保護者

皆様、こんにちは。私の娘は現在、3年生として茨木高校に在籍していますが、私自身も茨高の卒業生であり、この紙面をお借りして、保護者、そして卒業生として茨高の魅力の一端を、個人的な想いにはなりますが、皆様にお伝えできればと思います。

茨高は進学校として、先生方もハイレベルな授業を展開されますが、この学校は勉強にとどまらず、部活動も兼部する生徒が多いぐらいに盛んで、また何よりも生徒主体の学校行事への取り組みに熱心なことが特徴です。2025年には創立130周年を迎えますが、長い歴史の中で綿々と紡がれてきた自主自律の精神と、その伝統の一部であるという、一人ひとりの誇りが、茨高ならではの校風を作り、その象徴とも言える体育祭の高揚感と達成感は、子どもたちに最高の自信を与えてくれます。

私の娘も今年、体育祭マ스ゲームのリーダーとして、仲間と共に選曲、踊り、構成、衣装を考え、同じ団の他の生徒たちと日々練習を重ね、そして最後は心一つに、青空の下で踊り切るという体験をすることができました。この数ヶ月で、周囲を気遣い、集団を引っ張っていくという場を与えていただき、親も驚くような成長を遂げました。この学校は、このように、一人ひとりの子どもが、それぞれの個性を活かしながら輝き、そして、仲間と共に切磋琢磨して成長できる機会を与えてくれます。そして、時には危なっかしい生徒たちの行動に、直接的に介入せず、見えないところで支えてくださる先生がいる、そんな学校だと感じています。

ところで、この茨高との絆は、卒業し、社会に出てからも続きます。卒業生はさまざまな分野で活躍し、在校生向けの講演会や、職場の大学研究室訪問の受入など、いろいろな形で母校を支援していますが、それは多くの卒業生が、自身の人生の礎を築いた、この青春の場所に強い愛着があるからなのでしょう。そして、その茨高愛に応えるかのように、「久敬会」という同窓会組織があり、卒業生が集う場が頻繁に催されています。そこでは、上は90歳を超えた方から、下は卒業したての18歳までが、茨高というキーワードで繋がり、さらに不思議なことに、生きた時代が異なるのに、まるで同じ風景を見てきたかのように、茨高での青春時代を語り合います。そうしたコミュニティを提供できる学校というのは、それほど多くはないでしょう。

本日、この学校にいらした皆様のお子様が、このような茨高の風土に少しでも触れることができ、進路選択の参考にしていただけたら幸いです。